

シラバス集

2023年度

大阪保育福祉専門学校

〈注意〉

1. ここに記されている授業計画(シラバス)は2023年4月1日時点での「予定」です。
授業の展開上またはその他の事情により変更される場合があります。
2. 各科目の授業は、授業計画(シラバス)として記載されている以外にも行われる場合があります。
3. 期別欄 ※1…前期・後期いずれか半期で履修(時間割・別掲示参照)
4. 開講期の変更の可能性があります。時間割で確認して下さい。

授業概要

科目名 保育原理		形式 講義	担当者名 安原 千香子	
回数 8回	時間数 15時間	単位数 1単位	期別 前期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 人間とは何か、子どもとは何かを考え、乳幼児期の環境のあり方の重要性と共に、現実の子どもの姿と取り巻く環境について正しい知識を学ぶ。それを踏まえた上で保育の意義と目的を考え、自分なりの保育観を養い、保育を創り出していくための基礎を培い後期の「保育者論」に繋ぐ。				
授業全体の内容の概要 ① 子ども観や子どもの権利の変遷を踏まえて、乳幼児期の環境のあり方について考える。 ② 子どもを取り巻く環境と子育て環境の現状、現保育制度や法令について学ぶ。 ③ 現代の子育て環境、保育体系の現状を踏まえて、保育のあり方について考える。				
授業終了時の達成課題（到達目標） 子どものあるべき姿について歴史を踏まえ理解し、現代の子どもを取り巻く環境に関する基礎的知識を得る。現代における保育の意義・保育施設の役割についての基本を理解する。				
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法				
1	オリエンテーション～保育を学ぶに当たって/子ども理解と保育観の構築に向けて *グループディスカッション(GD)①			
2	子どもを取り巻く環境について ①歴史の変遷/子ども観の移り変わり *GD② ②歴史の変遷/子どもの権利の移り変わり			
3	子どもを取り巻く環境について ③歴史の変遷/家族環境と子育ての移り変わり ④現代社会における子育て *小テスト①			
4	保育とは/理念と概念、目的 *GD④			
5	保育施設の制度と役割 ①歴史と現状、保育の変遷と保育施設 *GD⑤ ②制度的理解/子ども子育て支援制度、保育の実施体系			
6	乳幼児の発達と保育 ①発達を学ぶための基本的理論（エリクソン・ピアジェ等）			
7	保育所保育指針等における保育 ①保育所保育指針等とは②保育の基本原則			
8	保育所保育指針等における保育 ③保育の目的、内容 ④保育の実践にあたって			
使用テキスト・参考文献 柏原栄子・渡辺のゆり/編「新現代保育原理」建帛社 「平成 29 年告示 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」			単位認定の方法及び基準 最終試験と平常点 (小テスト・レポート ・授業に取り組む姿勢など)	

【実務経験】

私立幼稚園勤務（6年） 児童相談研究所勤務（4年）

幼稚園で3～5歳児の担任をした経験から、子どもの発達について理論と実践を交えて授業を展開する。保育の課程や計画と指導について、事例を踏まえて説明する。

授業概要

科目名		教育方法論		形式	担当者名																
				講義	安原 千香子																
回数	時間数	単位数	期別	必修・選択																	
8回	15時間	1単位	前期	選択																	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>乳幼児期の教育（保育所・幼稚園・認定こども園）現場の教育の方法を理解する。その上で、乳幼児期の教育現場においてその知識を活かし、遊びを中心とした教育実践を構想する。</p>																					
<p>授業全体の内容の概要</p> <p>乳幼児期の教育の基本原理の理解に重要なテーマについて理解し、子ども達にとって魅力的な教育活動を計画・実践するための知識と技術を習得する。</p>																					
<p>授業終了時の達成課題（到達目標）</p> <p>①乳幼児期の教育方法の基本原理を理解し、説明できる。 ②①を踏まえ、遊びを通じた具体的な実践を計画できる。 ③子どもの意欲を高める保育者の関わりの必要性を理解し、実践に活かすことができる。</p>																					
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td>子どもの意欲を高める保育者の関わり - 保育者の子どもへの関わり方</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>乳幼児期の教育における情報機器の活用 - リテラシーとモラル、教材の作成</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>乳幼児期の教育は子ども達の何を育てるのか? - 認知能力と非認知能力-</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>乳幼児期の教育方法の重要事項 - 「遊び」・「環境」</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>主体的・対話的で深い学び</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>教育の評価 - 乳幼児の育ちをみる視点と改善</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>設定保育指導案の作成・自己評価・改善</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>まとめ</td> </tr> </table>						1	子どもの意欲を高める保育者の関わり - 保育者の子どもへの関わり方	2	乳幼児期の教育における情報機器の活用 - リテラシーとモラル、教材の作成	3	乳幼児期の教育は子ども達の何を育てるのか? - 認知能力と非認知能力-	4	乳幼児期の教育方法の重要事項 - 「遊び」・「環境」	5	主体的・対話的で深い学び	6	教育の評価 - 乳幼児の育ちをみる視点と改善	7	設定保育指導案の作成・自己評価・改善	8	まとめ
1	子どもの意欲を高める保育者の関わり - 保育者の子どもへの関わり方																				
2	乳幼児期の教育における情報機器の活用 - リテラシーとモラル、教材の作成																				
3	乳幼児期の教育は子ども達の何を育てるのか? - 認知能力と非認知能力-																				
4	乳幼児期の教育方法の重要事項 - 「遊び」・「環境」																				
5	主体的・対話的で深い学び																				
6	教育の評価 - 乳幼児の育ちをみる視点と改善																				
7	設定保育指導案の作成・自己評価・改善																				
8	まとめ																				
<p>使用テキスト・参考文献</p> <p>垂見直樹・池田竜介編著『幼児教育・保育のための教育方法論』ミネルヴァ書房 2021年</p>			<p>単位認定の方法及び基準</p> <p>レポート・定期試験・授業態度</p>																		

授業概要

科目名 社会福祉		形式 講義	担当者名 植田 彌生																	
回数 8回	時間数 15時間	単位数 1単位	期別 後期	必修・選択 選択																
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>社会福祉をめぐる思想、歴史、制度、人材等について、基礎的な知識を身につけるとともに、社会福祉がこれまでどのような機能と役割を担ってきたのか、課題はなにか、差別や人権侵害、貧困問題に市民や社会福祉実践者たちがどう立ち向かってきたのか、などを理解する。また、積極的な学生の自己学習や様々な意見交換を通して、自分なりの社会福祉への関心、問題意識を醸成していくことを大事にしていきたい。</p>																				
<p>授業全体の内容の概要</p> <p>社会福祉全体の法制度について理解をするが、特に児童福祉の分野については詳細な理解を求める。</p>																				
<p>授業終了時の達成課題（到達目標）</p> <p>① 社会福祉の基本的な法制度について理解し、説明することができる。 ② 社会福祉の歴史的な流れについて理解し、説明することができる。 ③ 社会福祉を取り巻く現状や課題について理解し、説明することができる。</p>																				
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">1</td> <td>社会福祉の基本的考え方・社会福祉の歴史的展開Ⅰ～戦後の救貧対策～</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>社会福祉の歴史的展開Ⅱ～経済的發展を背景とした福祉国家への歩み～</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>社会福祉制度の基本的理解Ⅰ 児童家庭福祉 社会的養護における支援、障がい児への支援、子育て支援</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>社会福祉制度の基本的理解Ⅱ 障がい者福祉 障がい者総合支援法、高齢社会と介護保険法</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>社会福祉制度の基本的理解Ⅲ 高齢者福祉 高齢社会と介護保険法、地域包括ケアシステム</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td>社会福祉制度の基本的理解Ⅳ 社会保障① 社会保険制度 社会保障② 公的扶助</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td>社会福祉の課題と今後の方向性</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td>ふりかえりとまとめ</td> </tr> </table>					1	社会福祉の基本的考え方・社会福祉の歴史的展開Ⅰ～戦後の救貧対策～	2	社会福祉の歴史的展開Ⅱ～経済的發展を背景とした福祉国家への歩み～	3	社会福祉制度の基本的理解Ⅰ 児童家庭福祉 社会的養護における支援、障がい児への支援、子育て支援	4	社会福祉制度の基本的理解Ⅱ 障がい者福祉 障がい者総合支援法、高齢社会と介護保険法	5	社会福祉制度の基本的理解Ⅲ 高齢者福祉 高齢社会と介護保険法、地域包括ケアシステム	6	社会福祉制度の基本的理解Ⅳ 社会保障① 社会保険制度 社会保障② 公的扶助	7	社会福祉の課題と今後の方向性	8	ふりかえりとまとめ
1	社会福祉の基本的考え方・社会福祉の歴史的展開Ⅰ～戦後の救貧対策～																			
2	社会福祉の歴史的展開Ⅱ～経済的發展を背景とした福祉国家への歩み～																			
3	社会福祉制度の基本的理解Ⅰ 児童家庭福祉 社会的養護における支援、障がい児への支援、子育て支援																			
4	社会福祉制度の基本的理解Ⅱ 障がい者福祉 障がい者総合支援法、高齢社会と介護保険法																			
5	社会福祉制度の基本的理解Ⅲ 高齢者福祉 高齢社会と介護保険法、地域包括ケアシステム																			
6	社会福祉制度の基本的理解Ⅳ 社会保障① 社会保険制度 社会保障② 公的扶助																			
7	社会福祉の課題と今後の方向性																			
8	ふりかえりとまとめ																			
<p>使用テキスト・参考文献</p> <p>「社会福祉」 青踏社 新川泰弘</p>			<p>単位認定の方法及び基準</p> <p>小テスト（20％）試験（60％）授業課題（20％） その他、平常点、授業内での発言、提出物なども成績に反映する。</p>																	

授業概要

科目名 子ども家庭福祉			形式 講義	担当者名 植田 彌生																
回数 8回	時間数 15時間	単位数 1単位	期別 後期	必修・選択 選択																
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>児童・家庭福祉に関する基礎知識の修得。 保育実習を履修する上で必要な基礎知識の修得。</p>																				
<p>授業全体の内容の概要</p> <p>① 児童・家庭福祉の歴史の変遷 ② 児童・家庭福祉の法制度・サービス ③ 児童・家庭福祉サービスの実施体系</p>																				
<p>授業終了時の達成課題（到達目標）</p> <p>① 児童・家庭福祉の歴史的な流れについて理解し、説明することができる。 ② 児童・家庭福祉の基本的な法制度・サービス及びその実施体系について理解し、説明することができる。</p>																				
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション／社会福祉・児童福祉とは何か</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>児童・家庭福祉の歩み①（明治～戦前の歴史概要の振り返り） ■プリント</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>児童・家庭福祉の歩み②（明治～戦前） ■よくわかる子ども家庭福祉 P52～57 （戦前～戦後） ■よくわかる子ども家庭福祉 P58～61</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>児童・家庭福祉を支える法制度①憲法と福祉六法 ■プリント</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>児童・家庭福祉を支える法制度②児童福祉法他 ■よくわかる子ども家庭福祉 P70～81</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>児童・家庭福祉行政の仕組み国と地方① ■よくわかる子ども家庭福祉 P82～83, 90～97</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>児童・家庭福祉サービスの財政と費用負担 ■よくわかる子ども家庭福祉 P86～89 児童・家庭福祉サービスの利用システム ■プリント</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>まとめ</td> </tr> </table>					1	オリエンテーション／社会福祉・児童福祉とは何か	2	児童・家庭福祉の歩み①（明治～戦前の歴史概要の振り返り） ■プリント	3	児童・家庭福祉の歩み②（明治～戦前） ■よくわかる子ども家庭福祉 P52～57 （戦前～戦後） ■よくわかる子ども家庭福祉 P58～61	4	児童・家庭福祉を支える法制度①憲法と福祉六法 ■プリント	5	児童・家庭福祉を支える法制度②児童福祉法他 ■よくわかる子ども家庭福祉 P70～81	6	児童・家庭福祉行政の仕組み国と地方① ■よくわかる子ども家庭福祉 P82～83, 90～97	7	児童・家庭福祉サービスの財政と費用負担 ■よくわかる子ども家庭福祉 P86～89 児童・家庭福祉サービスの利用システム ■プリント	8	まとめ
1	オリエンテーション／社会福祉・児童福祉とは何か																			
2	児童・家庭福祉の歩み①（明治～戦前の歴史概要の振り返り） ■プリント																			
3	児童・家庭福祉の歩み②（明治～戦前） ■よくわかる子ども家庭福祉 P52～57 （戦前～戦後） ■よくわかる子ども家庭福祉 P58～61																			
4	児童・家庭福祉を支える法制度①憲法と福祉六法 ■プリント																			
5	児童・家庭福祉を支える法制度②児童福祉法他 ■よくわかる子ども家庭福祉 P70～81																			
6	児童・家庭福祉行政の仕組み国と地方① ■よくわかる子ども家庭福祉 P82～83, 90～97																			
7	児童・家庭福祉サービスの財政と費用負担 ■よくわかる子ども家庭福祉 P86～89 児童・家庭福祉サービスの利用システム ■プリント																			
8	まとめ																			
<p>使用テキスト・参考文献</p> <p>山縣他編『よくわかる子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房 『福祉小六法』みらい※その他福祉系科目において使用</p>			<p>単位認定の方法及び基準</p> <p>1 / 3以上の欠席は単位取得無資格とする。 評価は、筆記試験および受講態度（居眠・騒乱等による減点）に基づいて決定する。</p>																	

授業概要

科目名 社会的養護 I			形式 講義	担当者名 大島 弘之
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	期別 前期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 社会的養護の施設の原理に基づく実践の理解と、社会的養護の実践を通して、子どもの支援だけでなく親・家族への支援についても学び、子ども家庭福祉としてのソーシャルワークの視点を養う。				
授業全体の内容の概要 社会的養護の施設の機能や役割、子ども達への支援や保育者の業務と果たすべき役割について理解をできるようにする。そして保育者としての児童観や子育て観を養う。				
授業終了時の達成課題（到達目標） 保育者として社会的養護の理解と養護（子育て）における子ども、親・家族への支援について修得し実践することができる。				
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法				
1	オリエンテーション 社会的養護の理念と概念			
2	社会的養護の歴史の変遷			
3	子どもの人権擁護と社会的養護			
4	社会的養護の基本原則			
5	社会的養護における保育士等の倫理と責務			
6	社会的養護の制度と法体系			
7	社会的養護のしくみと実施体系			
8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク			
9	社会的養護の対象と支援のあり方			
10	家庭養護と施設養護			
11	社会的養護にかかわる専門職			
12	社会的養護に関する社会的状況			
13	施設等の運営管理の現状と課題			
14	被措置児童等の虐待防止の現状と課題			
15	社会的養護と地域福祉の現状と課題			
使用テキスト・参考文献 新基本保育シリーズ6 社会的養護 I (中央法規)			単位認定の方法及び基準 テストの評価 (40%) 授業への受講態度・積極的参加 (30%) レポートの提出 (30%)	

【実務経験】

児童養護施設勤務（児童指導員・主任指導員）（14 年） 児童心理治療施設（1 年） 保育園（副園長・園長）（5 年） 障害者自立支援施設（施設長）（1 年）

・児童養護施設、児童心理治療施設での勤務経験を基に、施設で暮らす子どもたちの状況、生活様式、家庭環境などの背景について、事例を交えながら話をします。 ・社会的養護にまつわる課題や制度について、現場から見た視点で話をします。 ・認定こども園の勤務経験から、地域における子育て支援の重要性やあるべき姿等について、体験を基に話をします。

授業概要

科目名 保育内容「健康」		形式 演習	担当者名 木村 アサ	
回数 15回	時間数 30時間	単位数 2単位	期別 前期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい ○子どもの心と体の発達についての基礎知識の習得 (幼稚園、保育園、こども園の子どもたちー地域で育つ子どもたちによりそって)				
授業全体の内容の概要 ○現代の子どもの心と体の発達について知る ○子どもの生きる力(生活面・あそび面)について学ぶ ○幼稚園、保育園、こども園、地域で育つそれぞれの子どもの姿を知り、保育者の働きを学ぶ				
授業終了時の達成課題(到達目標) ○幼稚園、保育園、こども園で育つ子ども(乳幼児)のことを知り、大切にされなければならない課題を理解していく				
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法				
1	オリエンテーション……「健康」ってどんなこと/授業内容・課題・演習について			
2	子どもの心と体の健康について			
3	基本的な生活習慣について……生活リズムの確立ー子どもを取り巻く社会の変化・生活環境			
4	食べること……授乳・離乳食ー食育について・食物アレルギー			
5	寝ること……SIDSのことーねむれない子どものこと			
6	排泄すること……おしめについて トイレットトレーニングについて			
7	着脱/清潔……こどもが気持ちよく遊び、すごせることとは			
8	運動機能の発達について	障がいを持った子どもたちとの出会い 1		
9	心の発達について…0,1,2歳児の子育ちの大切さ	障がいを持った子どもたちとの出会い 2		
10	心の発達について…幼児期・児童期の子育ての大切さ	障がいを持った子どもたちとの出会い 3		
11	乳幼児虐待について			
12	子どもにとって大切にされなくてはならないこととはどんなことか			
13	心と体を動かしてみよう……いろいろなあそびを知る			
14	安全、安心についてー事故、けが、色々な病気とその対応……命を守りぬくために			
15	まとめ			
使用テキスト・参考文献 短大指定のテキストを使用する		単位認定の方法及び基準 1. 毎回の授業を大切にしたい 2. 受講態度 3. 課題レポートの結果 4. 自分のノート作りをする ※4は最終授業で必ず提出すること 以上を総合的に評価		

【実務経験】

私立保育園勤務(保育士28年 園長12年)

40年間の中で、たくさん子どもたちと出会い、そこで経験してきた障がい児保育、子どもたち一人一人の違いを認め、関わることの大切さ、心のケア、親支援、安全対策、環境を整えることの重要性などについて伝え、現代社会において、共に考え、共に学び、育つ授業をおこなっていきます。

授業概要

科目名 保育内容「人間関係」			形式 演習	担当者名 辻本 有里恵
回数 8回	時間数 15時間	単位数 1単位	期別 後期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 領域「人間関係」のねらいと内容の理解を深め、子どもの発達と人とかかわる力を身につける過程を学び、子どもが人とかかわる力を養うための保育者の役割について学ぶ。				
授業全体の内容の概要 領域のねらいと内容を学ぶと共に、人とかかわる力を身につける過程・発達を学ぶ。具体的な保育実践事例により理解を深める。				
授業終了時の達成課題（到達目標） 領域「人間関係」のねらいと内容の理解を深め、子どもの発達と人とかかわる力を身につける過程を知り、保育者の役割を習得する。				
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法				
1	保育の基本と人とかかわり			
2	領域「人間関係」の基礎知識			
3	人とかかわる遊びを考える			
4	人とかかわりと保育者の役割 事例検討①			
5	人とかかわりと保育者の役割 事例検討②			
6	遊びと人間関係の発達			
7	特別な支援を要する子どもへのかかわり			
8	まとめ 学びの振り返り			
使用テキスト・参考文献 指定テキスト 「保育所保育指針解説」 「幼稚園教育要領解説」 「認定こども園教育・保育要領解説」			単位認定の方法及び基準 演習、課題、平常点により総合的に評価する	

授業概要

科目名 保育内容「言葉」			形式 演習	担当者名 山口 美帆
回数 15回	時間数 30時間	単位数 2単位	期別 前期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 乳幼児期における言葉の発達過程を学ぶ。 言葉の発達を促すために、保育者としてふさわしい援助や役割について学ぶ。				
授業全体の内容の概要 乳幼児期における言葉の発達のみちすじを学ぶ。 豊かな言葉を受け止め、育てるための援助や役割について学ぶ。 児童文化財によって子どもが持つ言葉の力を育てることを実践的に学ぶ。				
授業終了時の達成課題（到達目標） 乳幼児期における言葉の発達を促すためにふさわしい保育環境や保育者の援助・役割を知り、保育のなかで実践していく力を習得する。				
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法				
1	オリエンテーション 科目と領域「言葉」の理解 授業の進め方、演習内容、提出課題について（読書カード）			
2	保育の基本と領域「言葉」			
3	言葉と保育の実際 1 ー文化財（絵本）についてー			
4	言葉と保育の実際 2 ー文化財（絵本・紙芝居）についてー			
5	乳幼児期の言葉の発達 1 ー言葉の発達の道筋ー			
6	乳幼児期の言葉の発達 2 ー乳児期の言葉の発達 1ー			
7	乳幼児期の言葉の発達 3 ー乳児期の言葉の発達 2ー			
8	乳幼児期の言葉の発達 4 ー幼児期の言葉の発達ー			
9	乳幼児期の言葉の発達 5 ーコミュニケーションとしての言葉			
10	保育内容「言葉」の変遷 ー保育所保育指針・幼稚園教育要領における変遷をみるー			
11	言葉と保育内容 1 ー保育の展開と幼児理解ー			
12	言葉と保育内容 2 ー保育者の役割ー			
13	言葉と保育内容 3 ー配慮を必要とする子どもへの支援ー			
14	言葉と保育内容 4 ー子どもの嘘と言葉の発達ー			
15	まとめ			
使用テキスト・参考文献 ・保育内容指導法「言葉」建帛社 ・『保育所保育指針』厚生労働省、『幼稚園教育要領』 文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 内閣府・厚生労働省・文部科学省			単位認定の方法及び基準 提出課題、演習課題、授業への取り組み、 最終試験により総合的に評価する。	

【実務経験】

私立保育園勤務（16年）

保育勤務の経験から、子どもたちの言葉の発達を順に自身が保育現場で見てきた事例を踏まえて授業を進める。また自身の保育経験から、子どもは、一人ひとり個性もあり、同じように発達するわけではない事も踏まえ、偏った見方をせず、子どもと向き合う事ができるような言葉がけについて、事例をあげて説明する。

授業概要

科目名 保育内容「表現Ⅰ」			形式 演習	担当者名 城野 敦子
回数 15回	時間数 30時間	単位数 2単位	期別 前期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 子どもが、自分なりに豊かな表現活動を行うために必要な援助方法や環境構成について学ぶ。 保育・幼児教育の指導者として自身の感性を磨き表現力を高める事の重要性について知る。				
授業全体の内容の概要 ・子どもの発達やとりまく環境も視野に入れ、子どもの音楽表現活動について学ぶ。 ・子どもの感性を育むために、保育・幼児教育の指導者に必要とされる役割について学ぶ。 ・音に親しみ、音楽表現活動の楽しさを体感する。				
授業終了時の達成課題（到達目標） 子どもの表現活動について学び、保育・幼児教育の指導者としての役割を理解する。 演習活動を通して音楽表現の経験値を増やし感性を豊かにする。				
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法				
1	オリエンテーション 表現とは			
2	領域「表現」と音楽表現			
3	音楽の力			
4	ユニバーサルデザインの音楽表現			
5	音楽表現とコミュニケーション			
6	リズムの力 / 即興リズムあそび / リトミック			
7	音楽表現と豊かなこころの発達			
8	ことば表現とコミュニケーションの発達			
9	音楽表現と動きの発達			
10	音楽表現と認知や社会性の発達			
11	楽器あそび①楽器を知る			
12	楽器あそび②リズム打ち			
13	歌う・演奏する			
14	クリエイティブ音楽ムーブメント			
15	まとめ			
使用テキスト・参考文献 『一人一人を大切にする ユニバーサルデザインの音楽表現』 萌文書林			単位認定の方法及び基準 平常点と試験を総合的に評価 (授業態度、提出物、演習、試験)	

【実務経験】

私立保育園勤務（8年） 公立養護学校勤務（介助員3年）

養護学校や保育園において、授業補助保育を行う。障がいをもつ児童・生徒や乳幼児が実際に興味を持っていた歌や遊びを取り入れた実践演習をし、指導のポイントを伝える。

授業概要

科目名 保育内容「表現Ⅱ」			形式 演習	担当者名 坂口 まゆり
回数 15回	時間数 30時間	単位数 2単位	期別 後期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの表現活動の大切さを学び、発達段階における造形表現の特徴について理解する。 ・豊かな表現活動を育むために保育者として必要な知識・技術・援助のあり方について学ぶ。 				
授業全体の内容の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達の道筋を理解しながら、造形表現活動の特徴について学ぶ。 ・演習を通して、楽しみながら保育の実践、展開に必要な基礎的な知識・技術を養う。 				
授業終了時の達成課題（到達目標） <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの造形表現活動について学び、基礎的な知識・技術を習得し、保育者の役割について理解する。様々な造形表現に親しみ、楽しさを味わい感性を豊かにする。 				
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法				
1	オリエンテーション			
2	保育内容「表現」とは、造形表現の意義			
3	はさみ・のりの使い方①			
4	はさみ・のりの使い方②			
5	折り紙遊び①			
6	折り紙遊び②			
7	子どもの描画活動における発達の特徴			
8	子どもの発達と造形表現活動 [0・1・2歳]			
9	子どもの発達と造形表現活動 [3・4・5歳]			
10	季節や行事を豊かにする造形活動			
11	色の基礎知識、描画材料・用具			
12	造形表現指導の実際			
13	保育を豊にするプログラム			
14	保育者の役割、教材研究			
15	まとめ			
使用テキスト・参考文献 ・槇 英子『保育をひらく造形表現』萌文書林			単位認定の方法及び基準 最終試験と平常点（演習課題、授業態度、造形ファイル）により、総合的に評価する。	

【実務経験】

医療型障害児福祉施設勤務（7年） 障害福祉サービス事業所勤務（6年）

すべての子どもの豊かな造形表現活動を支えるために、子どもの発達を理解しながら保育者として必要な知識・技術について学びます。また、障がいのある子どもにとって五感を刺激する造形表現活動は重要です。活動の意義やあそびの内容についても触れていきます。

授業概要

科目名 音楽			形式 演習	担当者名 北爪 かおり																														
回数 15回	時間数 30時間	単位数 2単位	期別 後期	必修・選択 選択																														
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>保育、介護、福祉の現場で活かすことの出来る音楽知識の習得。 歌唱の為の基礎知識、技術の修得、ミュージカル等の鑑賞により音楽的感性を養う。</p>																																		
<p>授業全体の内容の概要</p> <p>音楽理論の基礎を、練習問題を用いながら学習する。 毎回、現場で役立つ生活の歌、季節・行事の歌、遊び歌、わらべ歌を学び、歌う。</p>																																		
<p>授業終了時の達成課題（到達目標）</p> <p>音楽の基礎知識を習得すること。 上記の様々な歌に慣れ親しみ、歌唱の技術を習得すること</p>																																		
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>授業内容についてのガイダンス／第2章 音部記号・譜表・五線</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第3章 音符／第4章 休符</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第1章 音名／第5章 縦線と小節／第7章 音程</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第8章 音階／第9章 調／第16章 和音</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>鑑賞 ミュージカル</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>鑑賞 ミュージカル／鑑賞作品の考察・感想文提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>楽典筆記小テスト実施／録音課題曲提示・練習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>歌唱試験実施／録音課題曲練習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>レポート試験実施／課題曲録音</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>レポート課題作成／課題曲録音</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>レポート課題作成／課題曲録音</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>第11章 速度標語／第12.13章 強弱・曲想・奏法の記号／ 第14章 装飾音・装飾記号</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>合奏・ボディパーカッション</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>わらべ歌 DVD 鑑賞／わらべ歌演習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>楽典総まとめ／卒業・春の歌</td> </tr> </table>					1	授業内容についてのガイダンス／第2章 音部記号・譜表・五線	2	第3章 音符／第4章 休符	3	第1章 音名／第5章 縦線と小節／第7章 音程	4	第8章 音階／第9章 調／第16章 和音	5	鑑賞 ミュージカル	6	鑑賞 ミュージカル／鑑賞作品の考察・感想文提出	7	楽典筆記小テスト実施／録音課題曲提示・練習	8	歌唱試験実施／録音課題曲練習	9	レポート試験実施／課題曲録音	10	レポート課題作成／課題曲録音	11	レポート課題作成／課題曲録音	12	第11章 速度標語／第12.13章 強弱・曲想・奏法の記号／ 第14章 装飾音・装飾記号	13	合奏・ボディパーカッション	14	わらべ歌 DVD 鑑賞／わらべ歌演習	15	楽典総まとめ／卒業・春の歌
1	授業内容についてのガイダンス／第2章 音部記号・譜表・五線																																	
2	第3章 音符／第4章 休符																																	
3	第1章 音名／第5章 縦線と小節／第7章 音程																																	
4	第8章 音階／第9章 調／第16章 和音																																	
5	鑑賞 ミュージカル																																	
6	鑑賞 ミュージカル／鑑賞作品の考察・感想文提出																																	
7	楽典筆記小テスト実施／録音課題曲提示・練習																																	
8	歌唱試験実施／録音課題曲練習																																	
9	レポート試験実施／課題曲録音																																	
10	レポート課題作成／課題曲録音																																	
11	レポート課題作成／課題曲録音																																	
12	第11章 速度標語／第12.13章 強弱・曲想・奏法の記号／ 第14章 装飾音・装飾記号																																	
13	合奏・ボディパーカッション																																	
14	わらべ歌 DVD 鑑賞／わらべ歌演習																																	
15	楽典総まとめ／卒業・春の歌																																	
<p>使用テキスト・参考文献</p> <p>「新しい楽典」野崎 哲著 音楽之友社 こどものうた 200 チャイルド本社</p>			<p>単位認定の方法及び基準</p> <p>筆記の小テスト、歌唱テスト、鑑賞の感想文、 レポート・録音等の課題内容、授業態度を総合的に評価する。</p>																															

授業概要

科目名 器楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		形式 演習	担当者名 岡村わか子 林道子 氷室美果 山下由香	
回数 22回	時間数 30時間	単位数 2単位	期別 通年	必修・選択 器楽Ⅰ 必修 器楽Ⅱ 選択 器楽Ⅲ 選択
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>子どもの生活や遊びにおいてイメージを豊かにし感性を養うための保育の展開に必要な、音楽の基礎とピアノの演奏技術の習得及び伴奏法の向上を目指す。</p>				
<p>授業全体の内容の概要</p> <p>グレードごとに学年末に到達したい目標を設定する。</p> <p>器楽Ⅰ ・バイエル 55, 59, 60, 66, 72, 76 のいずれかを弾ける ピアノ経験者はグレードに応じたクラシック曲を弾く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの歌」のいずれかの伴奏が出来る ピアノ経験者は「子どもの歌」の伴奏や弾き歌いのレパートリーができる <p>器楽Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイエル 74, 75, 85, 88, 90, 97 の2曲が弾ける 81, 93, 94, 96, 98, 102 の2曲を暗譜して弾ける あるいはグレードに応じたクラシック曲を弾く ・子どもの歌（『こどものうた200』から2曲）の弾き歌いが出来る ・子どもの歌の伴奏、リズム曲が弾ける <p>器楽Ⅲ 器楽Ⅰ・Ⅱの基礎を踏まえて、初見や伴奏付けをする</p>				
<p>授業終了時の達成課題（到達目標）</p> <p>ピアノの演奏技術を向上させ、レパートリーを増やししながら音楽表現力を高め、また実力に応じた応用力を身に付ける。またそれによる保育の指導力を高める。</p>				
<p>授業の授業方法と内容</p> <p>*学生の演奏技術に応じた授業形態・プログラムを進める。 器楽Ⅰは、少人数のグループレッスンで基礎的な知識と技術を学ぶ。 器楽Ⅱ.Ⅲは、2, 3人のグループで個別授業を行う。実力に合わせて簡単な和声付け・弾き歌い・初見弾きなどを実践する。</p> <p>*前期・後期とも1回ずつ、各担当者の担当学生全員での器楽発表会(期日は学校暦を参照)を実施する。(前・後期とも「最終授業及び定期試験期間」週に授業は行わない。)</p>				
<p>使用テキスト・参考文献</p> <p>『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』 ドレミ楽譜出版社</p> <p>『ピアノ曲集(piano music for children)』 本学編集</p> <p>『こどものうた 200』 チャイルド本社</p> <p>『続こどものうた 200』 チャイルド本社</p>			<p>単位認定の方法及び基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価は、努力度、授業態度や技術の向上などの項目による本校独自の評価表に基づいて行う。 ・全出席を心がけ、練習を重ねた上で授業に臨む。 ・授業には『器楽履修状況表』を携行し、練習方法や練習内容等について指導を受ける。 ・前期の学習が不十分な学生には、夏期休暇中に補講を実施する。 	

授業概要

科目名 音楽表現技術		形式 演習	担当者名 北爪 かおり																	
回数 8回	時間数 15時間	単位数 1単位	期別 前期	必修・選択 選択																
<p>授業の目的・ねらい 教育現場に必要な声楽曲や弾き歌いのレパートリーを増やす。</p>																				
<p>授業全体の内容の概要 子どもの歌やコールユーブンゲンを歌うことでレパートリーを増やし音程の感覚を養う。 楽曲の作品解釈を行い、音楽表現の向上と音楽方法についても検討する。</p>																				
<p>授業終了時の達成課題（到達目標） 「幼児と音楽表現」での学修を元に、より実践的な歌唱法、ピアノ演奏法、伴奏法、表現法を習得する。</p>																				
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>基礎練習 楽曲振り返り コールユーブンゲン：18・19</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>コールユーブンゲン：20・22・23・/ピアノ弾き歌い3～5</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>コールユーブンゲン：25・26・28・/ピアノ弾き歌い6・7・8</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>コールユーブンゲン：32・34 コンコーネ：3 ピアノ弾き歌い6・7・8</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>子どもの歌：3・4・5・7/ ピアノ弾き歌い25・27・31・32・34</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>子どもの歌：8・12・13・16/ ピアノ弾き歌い38・39・44・48・49</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>子どもの歌：18・20・21・36/ ピアノ弾き歌い52・53・54・55</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>実技試験</td> </tr> </table>					1	基礎練習 楽曲振り返り コールユーブンゲン：18・19	2	コールユーブンゲン：20・22・23・/ピアノ弾き歌い3～5	3	コールユーブンゲン：25・26・28・/ピアノ弾き歌い6・7・8	4	コールユーブンゲン：32・34 コンコーネ：3 ピアノ弾き歌い6・7・8	5	子どもの歌：3・4・5・7/ ピアノ弾き歌い25・27・31・32・34	6	子どもの歌：8・12・13・16/ ピアノ弾き歌い38・39・44・48・49	7	子どもの歌：18・20・21・36/ ピアノ弾き歌い52・53・54・55	8	実技試験
1	基礎練習 楽曲振り返り コールユーブンゲン：18・19																			
2	コールユーブンゲン：20・22・23・/ピアノ弾き歌い3～5																			
3	コールユーブンゲン：25・26・28・/ピアノ弾き歌い6・7・8																			
4	コールユーブンゲン：32・34 コンコーネ：3 ピアノ弾き歌い6・7・8																			
5	子どもの歌：3・4・5・7/ ピアノ弾き歌い25・27・31・32・34																			
6	子どもの歌：8・12・13・16/ ピアノ弾き歌い38・39・44・48・49																			
7	子どもの歌：18・20・21・36/ ピアノ弾き歌い52・53・54・55																			
8	実技試験																			
<p>使用テキスト・参考文献 「音楽〈声楽教本〉」「音楽〈ピアノ教本〉」</p>			<p>単位認定の方法及び基準 実技試験、授業への積極的参加</p>																	

授業概要

科目名 保育実習 I B		形式 実習	担当者名 城野敦子	
時間数 90時間	単位数 2単位	期別 前期	必修・選択 選択	
授業の目的・ねらい 保育所の持つ機能・役割・実態について実習を通して理解し、保育の内容を体験的に学習する。				
授業全体の内容の概要 保育所での12日間の実習を通して、子どもの発達状況と個々人に合わせた保育の在り方について、学ぶ。また専門職として、社会人としての自覚と態度を養う。				
授業終了時の達成課題（到達目標） 実践を通して、保育の魅力や子どもたちにかかわる楽しさを知った上で、子どもの発達状況や保育士としての役割や援助のあり方を理解するようになる。				
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習指導1Bや保育実習準備1における事前学習⇒配属施設の発表⇒オリエンテーション依頼連絡⇒オリエンテーションの実施⇒オリエンテーション報告の提出・指導、実習前レポートの作成・指導⇒実習開始⇒担当教員による巡回指導を受ける⇒報告会等の事後指導⇒個別指導という流れに沿って進む。 ・保育所での実習においては、日々課題を持って臨み、保育所の業務を体験し、子どもと関わり、子どもの発達について学ぶ。 ・子どもの発達状況と個々人に合わせた保育の在り方について、業務を通して、実践的に学ぶ。またそれらの学びを毎日の記録の中にまとめて提出し、指導や助言を受けることで、理解を深めていくことが求められる。その上で、専門職として、社会人として必要な職業倫理を身につける。 ・実習後は、報告会等の事後指導で、メンバーの前での報告の機会を通して、自身の学びをグループの学生と共有することや他者の考えを知ること等により、学びを深める。また、実習後レポートをまとめることで、実習での学びを改めて整理する。その上で、実習記録、施設評価、実習後レポートなどを担当教員が読み、個別指導に活かすことで、しっかりとした振り返りを行う。 				
使用テキスト・参考文献 小櫃智子著『パーフェクトガイド』わかば社 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館 田中享胤監修『実習の記録と指導案』ひかりのくに		単位認定の方法及び基準 実習施設の評価、実習記録、実習前後レポート等により総合的に評価する。		

授業概要

科目名 保育実習指導 I B			形式 演習	担当者名 城野敦子
回数 15回	時間数 30時間	単位数 2単位	期別 前期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 保育所の持つ機能・役割・実態を実際の経験を通して理解し、保育の内容を体験的に学習する。				
授業全体の内容の概要 保育実習準備1と関連して、必要な知識・技術を身につけ、実習に不安なく効果的に取り組めるよう講義、演習、課題を通して学ぶ。また専門職として、社会人としての自覚と態度を養うよう学習意欲・態度が課題である。				
授業終了時の達成課題（到達目標） 保育の魅力や子どもたちにかかわる楽しさを知ったうえで、子どもの発達段階や保育士としての役割や援助のあり方を理解するようになる。				
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法				
1	オリエンテーション（実習の意義と目的、授業の内容、進め方、課題の説明） 保育体験 I についての説明			
2	DVD 視聴を通して子どもの発達とその援助を学ぶ（0歳児）			
3	DVD 視聴を通して子どもの発達とその援助を学ぶ（1歳児）			
4	DVD 視聴を通して子どもの発達とその援助を学ぶ（2歳児）			
5	DVD 視聴を通して子どもの発達とその援助を学ぶ（3歳児）			
6	DVD 視聴を通して子どもの発達とその援助を学ぶ（4歳児）			
7	DVD 視聴を通して子どもの発達とその援助を学ぶ（5歳児）			
8	演習（絵本他）①			
9	演習（絵本他）②			
10	実習施設への事前訪問について、その意義や目的、必要な手続き、礼儀、心得などについて学ぶ。			
11	保育指導案（部分）を作成する。ねらい、環境構成、子どもの活動、保育者の援助、留意点などを作成する①			
12	保育指導案（部分）を作成する。ねらい、環境構成、子どもの活動、保育者の援助、留意点などを作成する②			
13	実習記録の具体的内容を確認し、記録方法を学ぶ。①			
14	実習記録の具体的内容を確認し、記録方法を学ぶ。②			
15	実習直前の準備と心構えの確認、訪問指導の意義や内容について理解する。			
使用テキスト・参考文献 小櫃智子著『パーフェクトガイド』わかば社 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館 田中享胤監修『実習の記録と指導案』ひかりのくに			単位認定の方法及び基準 受講態度、提出物、小テスト等により総合的に評価する。	

授業概要

科目名 保育実習準備 I		形式 演習	担当者名 坂口まゆり・植田彌生 小川和代・城野敦子 内海裕美・辻本 有里恵
回数 2 3回	時間数 4 5時間	単位数 3単位	期別 通年
必修・選択 必修			
授業の目的・ねらい 保育実習 I Bに安心して取り組めるよう、実習生としての基本的態度、心構えを身につけること、また実習に必要な基礎知識・技術を習得することを目的とする。			
授業全体の内容の概要 ・子どもや職員との関わり方、仕事の内容を学ぶための体験学習。 ・レポートや実習記録の書き方を学ぶ。 ・保育教材演習。			
授業終了時の達成課題（到達目標） 保育実習 I Bに安心して取り組めるよう、実習生としての基本的態度、心構えを身につけること、また実習に必要な基礎知識・技術を習得する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
1	I B（前期オリエンテーション）	16	I B（保育体験振り返り①）
2	I B（名札の製作）	17	I B（保育体験振り返り①）
3	I B（名札の製作）	18	I B（保育体験振り返り②）
4	I B（名札の製作）	19	I B（保育体験振り返り②）
5	I B（保育教材製作）	20	I B（保育教材演習）
6	I B（保育教材製作）	21	I B（保育教材演習）
7	I B（保育教材製作）	22	I B（実習前レポート）
8	I B（後期オリエンテーション）	23	I B（実習前レポート）
9	I B（保育教材演習）		
10	I B（保育教材演習）		
11	I B（保育教材演習）		
12	I B（記録の書き方①）		
13	I B（記録の書き方②）		
14	I B（保育体験①）		
15	I B（保育体験②）		
使用テキスト・参考文献 保育実習 I Bのテキスト類。 その他、随時プリントを配布する。		単位認定の方法及び基準 受講態度・製作物やレポート等の提出物、その他の評価と合わせて総合的に評価する。	

授業概要

科目名 キリスト教教育Ⅰ・Ⅱ			形式 演習	担当者名 谷 克子
回数 30回 (1回45分)	時間数 30時間	単位数 2単位	期別 通年	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 本校の建学の基盤はキリスト教の精神である。将来、乳幼児・子ども・障害者・(高齢者)の教育・福祉のために働く者として、知識・技術の習得だけでなく、聖書にあるように、愛と奉仕と忍耐の心をもって仕えていく人になることを目的としている。				
授業全体の内容の概要 チャペルアワー(礼拝形式)に参加し、聖書を学び、メッセージを通じて自分のあり方を考える。その他、行事や講演を通してキリスト教について理解する。				
授業終了時の達成課題(到達目標) キリスト教の理念を理解する。聖書、賛美歌に親しむ。				
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法				
1	オリエンテーション	16	キリスト教のメッセージに学ぶ⑧	
2	キリスト教の基礎理解①	17	" ⑨	
3	" ②	18	" ⑩	
4	" ③	19	" ⑪	
5	キリスト教教育月間 ①	20	" ⑫	
6	" ②	21	" ⑬	
7	" ③	22	" ⑭	
8	" ④	23	" ⑮	
9	キリスト教のメッセージに学ぶ①	24	" ⑯	
10	" ②	25	クリスマスに向けて①	
11	" ③	26	" ②	
12	" ④	27	" ③	
13	" ⑤	28	クリスマス礼拝	
14	" ⑥	29	キリスト教のメッセージに学ぶ⑰	
15	" ⑦	30	創立者召天記念礼拝	
使用テキスト・参考文献 聖書(新共同訳) 日本聖書協会 讃美歌 21 日本基督教団出版局			単位認定の方法及び基準 チャペルアワー、行事への取り組みと課題・レポートによって評価する。	

授業概要

科目名 基礎演習 I			形式 演習	担当者名 吉野綾	
回数 30回 (1回45分)	時間数 30時間	単位数 2単位	開講学年 1年	期別 通年	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 社会福祉にかかわる者として、人間の尊厳と平等を守る姿勢を貫くこと、子ども・高齢者・障がい児者への必要・的確な援助を、創設者の理念を基に理解する。					
授業全体の内容の概要 保育士資格・幼稚園教諭2種免許・社会福祉士受験資格(卒業後実務経験2年要)・社会福祉主事任用資格を理解する。 クラスメートとのかかわり、学校行事等を通して自己覚知し、資格を目指して自己研鑽する。					
授業終了時の達成課題(到達目標) 望ましい保育士像を自分なりに描き、近づく努力をする。 就職・進級に向けて、次年度への目標を明確にする。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	自己紹介・桜バザーの説明	16	実習に向けて 授業態度・生活態度の再確認		
2	新入生リトリートの説明	17	実習で使う漢字練習問題①		
3	クラス委員の選出・クラス運営の説明	18	実習で使う漢字練習問題②		
4	授業を受ける心構え①	19	実習で使う漢字練習問題③		
5	授業を受ける心構え②	20	学校行事準備①		
6	講義の受け方①	21	学校行事準備②		
7	講義の受け方②	22	学校行事準備③		
8	ノートのとり方①	23	学校行事準備④		
9	ノートのとり方②	24	学校行事振り返り		
10	ノートのとり方③	25	常識マナー問題①		
11	試験の取り組み、受け方について	26	常識マナー問題②		
12	漢字練習問題①	27	常識マナー問題③		
13	漢字練習問題②	28	常識マナー問題④		
14	漢字練習問題③	29	グループワーク		
15	夏期休暇の過ごし方について・まとめ (社会人としてのマナー、態度、言葉遣いについて)	30	一年間のまとめ、実習の事前学習		
使用テキスト・参考文献 資料はその都度配布する。			単位認定の方法及び基準 ①授業態度を重視する。 その他発表、取り組みの姿勢を加味して総合的に評価する。		

授業概要

科目名 保健体育・レクリエーションⅠ		形式 講義・実技	担当者名 大秦真利子
回数 15回	時間数 30時間	単位数 2単位	期別 前期 必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 健康づくりに関する基礎知識の修得と、演習を通して体力の維持・増進を図るとともに、 幼児の健康づくりに必要な知識とスキルを学ぶ。			
授業全体の内容の概要 演習を通して体力づくりやコミュニケーション能力を養う。 生涯の健康管理と、幼児の人間形成における保健体育・レクリエーションの意義を学習する。			
授業終了時の達成課題（到達目標） 運動の必要性を理解し、生涯にわたる心身の健康づくりと幼児の運動支援ができる実践力を身に付ける。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
1	オリエンテーション：保健体育・レクリエーションの意義		
2	実技：バレーボール①		
3	実技：バレーボール②		
4	講義：健康づくりと生活習慣病		
5	実技：バスケットボール①		
6	実技：バスケットボール②		
7	レポート課題：作成及び提出		
8	実技：サッカー①		
9	実技：サッカー②		
10	講義：幼児の運動遊び		
11	実技：卓球①		
12	実技：卓球②		
13	レポート試験		
14	実技：ドッチボール他		
15	まとめ		
使用テキスト・参考文献 「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」 「小学校学習指導要領」 文部科学省 「幼児体育」 日本幼児体育学会 「健康づくり」 健康運動指導士会		単位認定の方法及び基準 授業態度と演習の活動評価及びレポートにより 総合評価する。	

授業概要

科目名 保健体育・レクリエーションⅡ		形式 講義・実技	担当者名 大畑 秀典
回数 15回	時間数 30時間	単位数 2単位	期別 後期 必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 幼児体育と聞けば運動面の成長だけを捉えがちであるが、運動面だけではなく心の育ちも含めての育ちになる。保育士としてどのように関わっていくかを考えていくことを目的とする。			
授業全体の内容の概要 基本的な運動あそびを知り、その時の関わり方を子どもになって体験をしていく。 あそびの裏側にある身体・心の育ちを感じながら、毎回自分の言葉でレポートを作成し提出する。			
授業終了時の達成課題（到達目標） 現場に立った時、いろいろな運動あそびを年齢や発達段階に応じた内容に変え対応することが出来るようになることを目標とする。提出したレポートは返還され、自身の大切な資料となる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
1	オリエンテーション、身体を使ったレクあそび、季節感のある運動あそび1 ～春～		
2	運動会関係		
3	身近のものを使った運動あそび1		
4	手具（縄・フープ・パラシュート・ボール）など使った運動あそび1		
5	近代の子どもたちの問題		
6	幼児体育の意義・役割・指導法		
7	季節感のある運動あそび2 ～夏から秋～		
8	移動遊具（マット・跳び箱・鉄棒）など使った運動あそび1		
9	移動遊具（マット・跳び箱・鉄棒）など使った運動あそび2		
10	身近なものを使った運動あそび2		
11	手具（縄・フープ・パラシュート・ボール）など使った運動あそび1		
12	手具（縄・フープ・パラシュート・ボール）など使った運動あそび2		
13	季節感のある運動あそび3 ～秋から冬～		
14	季節感のある運動あそび4 ～冬～		
15	まとめ		
使用テキスト・参考文献 『元気な子どもを育てる幼児体育』 前橋明編 保育出版社		単位認定の方法及び基準 受講態度・提出物・テストの結果等から総合的に判断する。	

授業概要

科目名 英会話			形式 演習	担当者名 日下部 純江																														
回数 15回	時間数 30時間	単位数 2単位	期別 前期	必修・選択 選択																														
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>日本語と英語の違いについて構造的な知識理解を深める（特に音声面）。 英語の歌、絵本、手遊びなどを、学び合いを通して、将来保育者として現場で実践できる基礎的な知識、技術習得を目指す。</p>																																		
<p>授業全体の内容の概要</p> <p>講義形式、学び合い形式、また実践発表形式で進める。</p>																																		
<p>授業終了時の達成課題（到達目標）</p> <p>英語と日本語の差異についての基本的知識を理解し、各自の英語音声による発表が行える。 将来保育の現場において、英語の歌、絵本、手遊びなどの学びを、保育者として必要な場面で実践に活かすことができるようにする。</p>																																		
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 5%;">1</td><td>自己紹介・オリエンテーション・アンケート・英会話講座での注意等</td></tr> <tr><td>2</td><td>英語音声指導1（母音）、コミュニケーションゲーム・英語の歌</td></tr> <tr><td>3</td><td>英語音声指導2（母音、子音）・英語の歌の振り付け</td></tr> <tr><td>4</td><td>英語絵本・歌を使って実践・音声指導3（連結子音等）</td></tr> <tr><td>5</td><td>英語絵本・歌を使って実践・音声指導4（有声音、無声音）</td></tr> <tr><td>6</td><td>英語のリズム・イントネーション・手遊び歌・クイズ・学び合い実践</td></tr> <tr><td>7</td><td>英語絵本・歌を使って実践的学び合い1（擬声語・擬態語）</td></tr> <tr><td>8</td><td>英語絵本・歌を使って実践的学び合い2（英日翻訳）</td></tr> <tr><td>9</td><td>英語の歌・絵本・手遊び1（ことわざ・マザーグース・チャンツ）</td></tr> <tr><td>10</td><td>英語の歌・絵本・手遊び2（童謡、伝承遊び、早口言葉）</td></tr> <tr><td>11</td><td>英語の歌・絵本・手遊び3（数、色、形、）</td></tr> <tr><td>12</td><td>プレゼンテーション1準備（実践・グループワーク）</td></tr> <tr><td>13</td><td>プレゼンテーション2</td></tr> <tr><td>14</td><td>プレゼンテーション3</td></tr> <tr><td>15</td><td>プレゼンテーション予備日、アンケート・振り返り</td></tr> </table>					1	自己紹介・オリエンテーション・アンケート・英会話講座での注意等	2	英語音声指導1（母音）、コミュニケーションゲーム・英語の歌	3	英語音声指導2（母音、子音）・英語の歌の振り付け	4	英語絵本・歌を使って実践・音声指導3（連結子音等）	5	英語絵本・歌を使って実践・音声指導4（有声音、無声音）	6	英語のリズム・イントネーション・手遊び歌・クイズ・学び合い実践	7	英語絵本・歌を使って実践的学び合い1（擬声語・擬態語）	8	英語絵本・歌を使って実践的学び合い2（英日翻訳）	9	英語の歌・絵本・手遊び1（ことわざ・マザーグース・チャンツ）	10	英語の歌・絵本・手遊び2（童謡、伝承遊び、早口言葉）	11	英語の歌・絵本・手遊び3（数、色、形、）	12	プレゼンテーション1準備（実践・グループワーク）	13	プレゼンテーション2	14	プレゼンテーション3	15	プレゼンテーション予備日、アンケート・振り返り
1	自己紹介・オリエンテーション・アンケート・英会話講座での注意等																																	
2	英語音声指導1（母音）、コミュニケーションゲーム・英語の歌																																	
3	英語音声指導2（母音、子音）・英語の歌の振り付け																																	
4	英語絵本・歌を使って実践・音声指導3（連結子音等）																																	
5	英語絵本・歌を使って実践・音声指導4（有声音、無声音）																																	
6	英語のリズム・イントネーション・手遊び歌・クイズ・学び合い実践																																	
7	英語絵本・歌を使って実践的学び合い1（擬声語・擬態語）																																	
8	英語絵本・歌を使って実践的学び合い2（英日翻訳）																																	
9	英語の歌・絵本・手遊び1（ことわざ・マザーグース・チャンツ）																																	
10	英語の歌・絵本・手遊び2（童謡、伝承遊び、早口言葉）																																	
11	英語の歌・絵本・手遊び3（数、色、形、）																																	
12	プレゼンテーション1準備（実践・グループワーク）																																	
13	プレゼンテーション2																																	
14	プレゼンテーション3																																	
15	プレゼンテーション予備日、アンケート・振り返り																																	
<p>使用テキスト・参考文献</p> <p>指定のテキストは使用せず、資料は講師が作成し毎回配付する。</p>			<p>単位認定の方法及び基準</p> <p>受講態度・プレゼンテーションなどへの取り組みにより総合的に評価する。</p>																															

授業概要

科目名 日本国憲法		形式 講義	担当者名 奥野 恒久																															
回数 15回	時間数 30時間	単位数 2単位	期別 前期	必修・選択 選択																														
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>日本国憲法は国の基本法として日本の政治と国民生活の基本的なあり方を指示したものである。その憲法が最も大切にしている原理原則は何か、そして、その原理原則を実現するための政治の仕組みがどうなっているのかを体系的に学ぶ。また、現実社会との間のある課題等について自分なりに考える機会としたい。</p>																																		
<p>授業全体の内容の概要</p> <p>憲法の意味や役割、機能を理解する。基本的人権の歴史的な成立過程を理解し、日本国憲法における基本的人権の意味を理解する。現代社会における憲法の役割と法律を区分して説明することができるようになる。</p>																																		
<p>授業終了時の達成課題（到達目標）</p> <p>日本国憲法が大切にしている原理原則は何かについて理解することができる。 現実社会との間にある課題等について、自分なりの考えを養うことができる。</p>																																		
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション「憲法とは何か」</td></tr> <tr><td>2</td><td>日本国憲法の制定と特色</td></tr> <tr><td>3</td><td>基本的人権とは何か①…人権の歴史と体系</td></tr> <tr><td>4</td><td>基本的人権とは何か②…人権の限界</td></tr> <tr><td>5</td><td>基本的人権とは何か③…新しい人権</td></tr> <tr><td>6</td><td>人権を考える①…ネット社会、ヘイトスピーチなど</td></tr> <tr><td>7</td><td>人権を考える②…過労死など</td></tr> <tr><td>8</td><td>人権を考える③…貧困問題</td></tr> <tr><td>9</td><td>国民主権について</td></tr> <tr><td>10</td><td>国民主権と選挙制度</td></tr> <tr><td>11</td><td>統治機構の基本的考え方①…権力分立の歴史</td></tr> <tr><td>12</td><td>統治機構の基本的考え方②…議院内閣制</td></tr> <tr><td>13</td><td>統治機構の基本的考え方③…司法への国民参加</td></tr> <tr><td>14</td><td>統治機構の基本的考え方④…安全保障と自衛隊</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td></tr> </table>					1	オリエンテーション「憲法とは何か」	2	日本国憲法の制定と特色	3	基本的人権とは何か①…人権の歴史と体系	4	基本的人権とは何か②…人権の限界	5	基本的人権とは何か③…新しい人権	6	人権を考える①…ネット社会、ヘイトスピーチなど	7	人権を考える②…過労死など	8	人権を考える③…貧困問題	9	国民主権について	10	国民主権と選挙制度	11	統治機構の基本的考え方①…権力分立の歴史	12	統治機構の基本的考え方②…議院内閣制	13	統治機構の基本的考え方③…司法への国民参加	14	統治機構の基本的考え方④…安全保障と自衛隊	15	まとめ
1	オリエンテーション「憲法とは何か」																																	
2	日本国憲法の制定と特色																																	
3	基本的人権とは何か①…人権の歴史と体系																																	
4	基本的人権とは何か②…人権の限界																																	
5	基本的人権とは何か③…新しい人権																																	
6	人権を考える①…ネット社会、ヘイトスピーチなど																																	
7	人権を考える②…過労死など																																	
8	人権を考える③…貧困問題																																	
9	国民主権について																																	
10	国民主権と選挙制度																																	
11	統治機構の基本的考え方①…権力分立の歴史																																	
12	統治機構の基本的考え方②…議院内閣制																																	
13	統治機構の基本的考え方③…司法への国民参加																																	
14	統治機構の基本的考え方④…安全保障と自衛隊																																	
15	まとめ																																	
<p>使用テキスト・参考文献 『福祉小六法』みらい「日本国憲法」</p>			<p>単位認定の方法及び基準 受講態度、授業への参加度、レポート、まとめの小テストなどから総合的に判断する。</p>																															

授業概要

科目名 基礎情報学			形式 演習	担当者名 長岡 孝美
回数 15回	時間数 30時間	単位数 2単位	期別 後期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい ・パソコンの扱いに慣れ親しむとともに、一般的なアプリケーションソフトウェアである Word・Excel・PowerPoint の基本的な操作を学ぶ。				
授業全体の内容の概要 ・アプリケーションソフトウェア（Word・Excel・PowerPoint）の基本的な操作を習得する。 《開講予定日》 別途掲示				
授業終了時の達成課題（到達目標） ・アプリケーションソフトウェア（Word・Excel・PowerPoint）の基本的な操作ができる。 ・レポート・課題作成に難なく使用できるようになる。				
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法				
1	はじめに コンピュータの基礎、ネットワークの利用 Word1 文字入力・文書作成			
2	Word2 文書作成・編集			
3	Word3 文書作成・編集・印刷			
4	Word4 表の作成・編集			
5	Word5 表現力を高める①（ワードアート・クリップアート）			
6	Word6 表現力を高める②（図形描画）			
7	Excel1 エクセルの基礎			
8	Excel2 表の作成①・印刷			
9	Excel3 表の作成②・関数の利用			
10	Excel4 グラフの作成①			
11	Excel4 グラフの作成②			
12	Excel5 ワークシートの連携・複数シートの操作			
13	Excel6 データベース処理			
14	PowerPoint1 スライドの作成・編集①			
15	PowerPoint2 スライドの作成・編集②、総復習			
使用テキスト・参考文献 情報リテラシー入門編 よくわかる Word2019&Excel2019			単位認定の方法及び基準 授業態度、授業の理解度が到達点まで達しているかどうかから総合的に判断する。	

授業概要

科目名 ハート・グローバル (HG) I		形式 演習	担当者名 植田 彌生 NPO法人じぶん未来クラブ
回数 8回	時間数 15時間	単位数 1単位	期別 前期 必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>HGは音楽やダンスの技術向上、英語を学ぶためのプログラムではありません。20数曲の歌やダンス、そしてパントマイムなどの英語によるワークショップを通じて、以下のことを体験のなかから学んでいくプログラムです。</p> <p>① SELF WORTH 参加者一人ひとりが他人と違った個性をもっていることを認識し、自信を獲得する。</p> <p>② RESPECT FOR OTHERS 自分と違った感じ方をする他人の大切さを学ぶ。</p> <p>③ PERFORMING ART 感じたことをそのまま表現することの大切さを学ぶ。</p> <p>④ TEAM WORK みんなで一つのことを真剣にやり遂げることの素晴らしさを学ぶ。</p> <p>⑤ INTERNATIONAL 文化交流・語学へのモチベーションの喚起。</p>			
<p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>HGは、アメリカの若者であるスタッフのサポートのもと、在校生や遙学園・ひびきの子ども、地域の子どもの総勢約250名が一緒になって、3日間でミュージカルの舞台を作り上げていく地域参加型体験授業です。舞台スタッフもしくは運営スタッフのどちらかを選択し登録します。</p>			
<p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>5つの教育効果の習得</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p>			
0	受講者決定（掲示発表）		
	舞台スタッフ費用徴収（昼休み：¥18,000円持参）※必修者は無料		
1	オリエンテーション①（昼休み）		
	オリエンテーション②（昼休み）		
	オリエンテーション③（昼休み）		
	*運営スタッフのみ 地域ボランティア（SV）・キッズサポーター（KS）とのミーティングを各1回実施予定		
2	ハートグローバル アウトリーチ①		
3	17:00~20:00		
4	ハートグローバル アウトリーチ②		
5	12:30~19:00		
6			
7	ハートグローバル アウトリーチ③		
8	10:00~20:00		
使用テキスト・参考文献：なし その他		単位認定の方法及び基準	
<p>○舞台スタッフについて（対象：全学年） 定員：約10名（必修者+若干名） *多数の場合は抽選 受講料：¥18,000円（必修者は無料）</p> <p>○運営スタッフについて（対象：HG経験者） 定員：約10名 *多数の場合は抽選</p>		<p>○受講態度 （居眠り・騒乱等による減点）に基づいて決定する。</p> <p>○学内オリエンテーション欠席者は、原則受講中止とする。</p> <p>○運営スタッフは、SV・KSとのミーティングに必ず出席すること。</p>	

授業概要

科目名 キャンプ演習 I		形式 演習	担当者名 一般財団法人 大阪府青少年活動財団 NOS (能勢アウトドアスクール)																								
回数 8回	時間数 15時間	単位数 1単位	期別 後期	必修・選択 必修																							
<p>授業の目的・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な“野外活動の理論と技術”を幅広く学ぶ。 ○演習を通して、野外技術だけでなく、コミュニケーション能力を高める。 																											
<p>授業全体の内容の概要</p> <p>体験型授業を中心に進める。組織キャンプのリーダーに必要な理論・技術を習得し、野外活動プログラムの企画・運営・指導の講義基礎を学ぶ。</p>																											
<p>授業終了時の達成課題（到達目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育キャンプに対する理解。 ○基礎的な野外活動技術の習得。 																											
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>授業オリエンテーション 講義 ○「キャンプの基礎知識」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>授業オリエンテーション 演習 ○レク・ゲーム（アイスブレイキング編）実習</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>演習 指導者に必要なソフトスキル① ○イニシアティブゲーム指導法</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>演習 指導者に必要なアウトドア基礎技術① ○野外活動におけるローピング・テンディング</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>演習 指導者に必要なアウトドア基礎技術② ○シルバーコンパスの使い方を学ぶ ○地図の見方（縮尺）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td>演習 指導者に必要なソフトスキル② ○キャンプファイヤー指導法</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td>演習 指導者に必要なソフトスキル③ ○ソング・ゲーム指導法</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td>演習 指導者に必要なソフトスキル④ ○自然体感ゲーム実習</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9</td> <td>演習 指導者に必要なアウトドア基礎技術③ ○自然物を使ったハンドクラフト</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10</td> <td>演習 プログラムの企画と運営（野外料理&クラフト） ○火のつけ方 ○ご飯の炊き方 ○ダッジオープン料理・基礎編 ○ダッジオープン料理・応用編、 ○自然物を使ったハンドクラフト</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">開講日 未定</td> </tr> </table>						1	授業オリエンテーション 講義 ○「キャンプの基礎知識」	2	授業オリエンテーション 演習 ○レク・ゲーム（アイスブレイキング編）実習	3	演習 指導者に必要なソフトスキル① ○イニシアティブゲーム指導法	4	演習 指導者に必要なアウトドア基礎技術① ○野外活動におけるローピング・テンディング	5	演習 指導者に必要なアウトドア基礎技術② ○シルバーコンパスの使い方を学ぶ ○地図の見方（縮尺）	6	演習 指導者に必要なソフトスキル② ○キャンプファイヤー指導法	7	演習 指導者に必要なソフトスキル③ ○ソング・ゲーム指導法	8	演習 指導者に必要なソフトスキル④ ○自然体感ゲーム実習	9	演習 指導者に必要なアウトドア基礎技術③ ○自然物を使ったハンドクラフト	10	演習 プログラムの企画と運営（野外料理&クラフト） ○火のつけ方 ○ご飯の炊き方 ○ダッジオープン料理・基礎編 ○ダッジオープン料理・応用編、 ○自然物を使ったハンドクラフト	開講日 未定	
1	授業オリエンテーション 講義 ○「キャンプの基礎知識」																										
2	授業オリエンテーション 演習 ○レク・ゲーム（アイスブレイキング編）実習																										
3	演習 指導者に必要なソフトスキル① ○イニシアティブゲーム指導法																										
4	演習 指導者に必要なアウトドア基礎技術① ○野外活動におけるローピング・テンディング																										
5	演習 指導者に必要なアウトドア基礎技術② ○シルバーコンパスの使い方を学ぶ ○地図の見方（縮尺）																										
6	演習 指導者に必要なソフトスキル② ○キャンプファイヤー指導法																										
7	演習 指導者に必要なソフトスキル③ ○ソング・ゲーム指導法																										
8	演習 指導者に必要なソフトスキル④ ○自然体感ゲーム実習																										
9	演習 指導者に必要なアウトドア基礎技術③ ○自然物を使ったハンドクラフト																										
10	演習 プログラムの企画と運営（野外料理&クラフト） ○火のつけ方 ○ご飯の炊き方 ○ダッジオープン料理・基礎編 ○ダッジオープン料理・応用編、 ○自然物を使ったハンドクラフト																										
開講日 未定																											
<p>使用テキスト・参考文献</p> <p>社団法人日本キャンプ協会 「キャンプ指導者入門」</p>			<p>単位認定の方法及び基準</p> <p>出席、活動への取り組み、レポートにより総合的に評価する。 (1/3以上の欠席は不可)</p>																								

授業概要

科目名 総合学習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ		形式 演習	担当者名 小川 和代
時間数 30時間	単位数 2単位	期別 前期もしくは後期	必修・選択 選択
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>学外でのボランティア等の活動を通して、自ら課題を見つけ、学び、考えることによって、保育士として必要な資質や能力を身につけることを目的とする。</p>			
<p>授業全体の内容の概要</p> <p>学外活動を基本とする。ボランティアや福祉関連、表現活動、市民生活に関する活動への参加、アルバイトなども含む。</p>			
<p>授業終了時の達成課題（到達目標）</p> <p>自らの課題に向き合う力、判断力や思考力、表現力などを身につけ、保育士として必要な資質や能力を養うことができる。</p>			
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外での活動にあたり、自らが向き合う課題や獲得したい力について考える。 ・その上で、課題や獲得したい力を言語化し、目標を明確化する。 ・実際にボランティアや福祉関連、表現活動、市民生活に関する活動への参加、アルバイトを行う。活動時間が、30時間以上になることが原則。 ・活動を振り返り、自らの課題に向き合い、今後に活かすようにする。 			
<p>使用テキスト・参考文献：なし</p> <p>校内での開講ではなく、移動支援従業者養成を行っている事業所にて受講する。交通費や実習にかかる経費は自己負担となる。</p>		<p>単位認定の方法及び基準</p> <p>科目登録者が修了証のコピーを提出した場合のみ単位認定を行う。</p> <p>全出席が原則であり、欠席・遅刻・早退は認められない。</p>	